

(事後評価)

早稲田高等研究所テニユア・トラックプログラム

(実施期間：平成 19～23 年度)

実施機関：早稲田大学（総括責任者：鎌田 薫）

プロジェクトの概要

若手研究者育成の場として、2006 年 9 月に既存の組織から独立したフューチャーインスティテュート（現：高等研究所）を立ち上げた。当研究所に理工系 TT 制度の導入を図り、若手研究者がテニユア候補生として、自立した環境の下で研究に従事できる新たな若手研究者育成制度の創設と定着を目指す。新たな制度導入後は、若手研究者に十分な研究費や独立した研究スペースを与え、共通機器利用やメンター・アドバイザー・専任スタッフ等の研究環境を提供する他、教員としての素養を身につける場も提供する。3 年目に継続の可否を審査し、卓越した研究成果・能力が認められる場合は専任教員（テニユア）として採用する。終了時には 50%以上をテニユアとして採用することを目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	b	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

「高等研究所」を実施主体とする競争型テニユアトラック制（以下「TT 制」という。）を試行し、その成果と課題を踏まえて本プロジェクト実施期間中に若手研究者の育成を目的として部局型 TT 制を創設し、TT 制の継続・定着を図っていることは評価できる。今後は、部局での TT 制導入の目標を明確にしつつ、本プロジェクトで得た TT 制実施のノウハウを活かして、多くの部局へ TT 制を導入することを期待する。

- ・ **目標達成度**：実施期間終了後も高等研究所においてテニユアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）の採用・育成を継続することは評価できる。しかし、ミッションステートメントに示されたテニユア採用率の目標を下回っていることへの改善や、採用した TT 若手に占める直前職が自機関であった者の比率を今後は低下させることが必要である。
- ・ **国際公募・選考・業績評価**：採用した TT 若手が大型の外部資金を獲得しており、優秀な若手研究者を育成したことは評価できるが、直前職が自校である比率や自機関で学位を

取得した TT 若手の比率が高く、実施期間終了後も継続する部局型 TT 制における改善が必要である。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：実施期間中から部局型 TT 制を導入したことによって持続的な TT 制へ制度変更したことは評価できる。今後は、部局型 TT 制における若手研究者の自立性を確保し、教育能力を高める施策の実施を期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：当初の高等研究所と部局が連携した競争型の TT 制からテニユアポストを 100%準備する部局型 TT 制を開始したことは評価できる。今後は、本プロジェクトの実施主体であった高等研究所と部局とがより緊密に連携し、TT 制を普及・定着させることを期待する。
- **実施期間終了後における取組**：TT 制が機関の方針として定められ、本プロジェクトの連携部局以外でも実質的な TT 制が運営されつつあることは評価できる。今後は、部局型 TT 制において公募・選考・評価・審査の公平性・透明性を確保するとともに、部局型 TT 制を人文科学系、社会科学系へ展開することを期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価結果を踏まえて、競争型から部局型 TT 制に変更したこと及び直前職が自機関であった TT 若手の比率を低下させようとした取組は評価できる。プロジェクト終了後は、私立大学における TT 制導入のモデルケースとなることを期待する。